

第16回「川の自然再生セミナー」開催報告

主席研究員 宮本 健也
企画グループ サブリーダー 渡邊 由美

1. はじめに

2018年11月6日に開催しました第16回「川の自然再生セミナー」についてご報告します。

「川の自然再生」セミナーは、様々な立場で河川の自然再生や多自然川づくりなどの実務に関わる方々の情報・意識共有、知識の向上、実践技術の取得を目的として、平成15年から毎年1回開催しています。

2. 開催概要

16回目となる今回は、国土交通省と国立研究開発法人土木研究所のご後援のもと、「河道掘削と断面設定の工夫」をテーマに開催し、河川事務所による現場における先進的な取組の報告と、土木研究所等の研究機関における最新の研究成果の紹介をいただきました。

【プログラム】（会場：月島社会教育会館）

- 講演1 河川環境行政の動向について
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 課長補佐 福田 勝之
- 講演2 冒頭説明
土木研究所 水環境研究グループ グループ長 萱場 祐一
- 講演3 鳴瀬川水系吉田川における再堆積抑制 斜め掘削の試行について
東北地方整備局 北上川下流河川事務所 調査課長 齊藤 勝博
- 講演4 信濃川下流における河道掘削の取組 ～湿地環境の創出と持続可能な河道管理を目指して～
北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所 調査設計課 秋田 桜彩
- 講演5 河川水辺の国勢調査から見える水域環境の良否—魚類の調査結果を用いた評価手法—
土木研究所 自然共生研究センター 研究員 森 照貴
- 講演6 河道掘削における環境配慮プロセス
土木研究所水環境研究グループ グループ長 萱場 祐一
- 講演7 河道掘削と氾濫原環境保全の両立—イシガイ類と魚類を対象として—
岐阜大学 流域圏科学研究センター 研究員 永山 滋也
- 講演8 自然堤防帯河道における高水敷掘削後の土砂堆積に流域特性が及ぼす影響
岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授 原田 守啓

3. 講演要旨

講演1では、河川環境をとりまくこれまでの流れ、河川環境施策の更なる展開について、多数の全国の事例を織り交ぜながら説明いただきました。

講演3では、平成27年豪雨災害をきっかけとして再堆積抑制を目標に斜め掘削を実施し、モニタリングしている状況を報告いただきました。

講演4では、エコトーンを形成する掘削形状の維持を目標として、土砂動態把握等のモニタリング状況について報告いただきました。

講演5では、河川環境の現状評価指標や河川管理手法を検討していくツールとしての水国調査結果活用の提案を報告いただきました。

講演6では、河道掘削が湿地等の再生に寄与すること、河道掘削の際の植物の「保全優先度」の設定手法について、具体的な事例を用いて説明いただきました。

講演7では、木曾川、揖斐川において、掘削により氾濫原環境が創出されたこと、今後の維持管理の考え方を報告いただきました。

講演8では、揖斐川、長良川における掘削後の土砂堆積機構や流域特性を踏まえた河道管理が必要であることを報告いただきました。

4. おわりに

本セミナーでは、多数の方にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。また、当日実施したアンケートでは、「テーマが明確であり、興味深かった。続編を期待する。」との意見を多数いただきました。

ご講演いただきました講師の方々にご参加いただいた皆様へ厚くお礼申し上げます。

なお、講演資料は、当研究所のホームページ内「開催行事」のページに掲載しておりますので、ご活用ください。

(http://www.rfc.or.jp/ivent30_sizensaisei.html)



当日の状況（参加者数 148名）